十八史略 ●鶏口牛後●

あらすじ 次の空欄に適語を入れて、内容を整理しなさい。

秦王は諸侯に領土の割譲を要求した。洛陽出身の〔①　　〕という者がいた。秦の恵王のところに行って(自らの策を)説いたが〔②　　〕なかった。そこで燕の文侯のところに行って(自らの策を)説き、趙と南北に〔③　　〕を結ばせようとした。燕(の文侯)は(その策に賛成して)〔①〕に(遊説の)〔④　　〕を与えて、趙に行かせた。〔①〕が趙の)粛侯に説いて言うには、「諸侯が力を合わせて秦に立ち向かえば、秦はきっと破れるだろう。六国が南北〔③〕を結んで、秦をのけ者にするのにまさるものはない。」と。粛侯は〔①〕に(六国〔③〕を成立させるために必要な遊説の)〔④〕を持たせ、諸侯に〔③〕を結ばせた。〔①〕は(説得するときに)世間で言い習わされていることわざを引用して諸侯に説いて言うには、「どちらかと言えば、鶏のくちばしとなっても、〔⑤　　〕にはならないほうが望ましい。」と。こうして六国は南北に連合した。

重要語句 次の語句の意味として適当なものを、次の中からそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

(1) 遊説（一三六・4）

ア 諸国を巡り自説を説くこと。　イ 諸国で優遇されること。
ウ 諸国へ勉強しに出ること。　エ 他国へ移住すること。

□

(2) 従親（一三六・6）

ア 東西に同盟を結ぶこと。　イ 南北に同盟を結ぶこと。
ウ 諸侯に従うこと。　エ 大国に従うこと。

□

重要句形 次の文を書き下し文に改めなさい。

(1) 莫若六国従親以擯秦。（一三七・1）

□

(2) 寧為鶏口、無為牛後。（一三七・2〜3）

□

内容理解 次の各問いにそれぞれ答えなさい。

1 「乃往説燕文侯、与趙従親。」（一三六・5〜6）を、(a)書き下し文に改め、(b)主語を補って現代語訳しなさい。

(a) □

(b) □

2 「従親」（一三六・6）とほぼ同じ意味で用いられている語を本文から**二字**で抜き出しなさい。

□

3 「燕資之、以至趙。」（一三六・6〜7）の現代語訳として適当なものを、次の中から**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア　燕王は蘇秦に資金を与えるために、趙に行った。
イ　燕王は蘇秦に資金を与えて、共に趙に行った。
ウ　燕王は蘇秦に資金を与えて、趙に行かせた。
エ　燕王は蘇秦の資金を得るために、趙に行かせた。

□

4 「西向」（一三六・9）の具体的な内容として適当なものを、次の中から**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア　秦の軍勢が西へ逃げること。
イ　秦の軍勢を西へ追いやること。
ウ　諸侯の軍勢が西の秦を攻めること。
エ　諸侯の軍勢が西へ逃げること。

□

5 「莫若六国従親、以擯秦。」（一三七・1）について、次の問いにそれぞれ答えなさい。

(1) 「莫若」の意味として適当なものを、次の中から**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア　まさるものはない。　イ　まさらない。
ウ　まさるはずがない。　エ　まさるかもしれない。

□

(2) 「六国従親」の具体的な内容を説明しなさい。

□

6 「寧為鶏口、無為牛後。」（一三七・2〜3）について、次の問いにそれぞれ答えなさい。

(1) 次の空欄にあてはまる語句を補って表を完成させなさい。

	意味	例
鶏口	鶏の A	独立した B 国の王
牛後	牛の C	D 国の家臣

(2) 現代語訳しなさい。

□

(3) この故事が諸侯の気持ちを動かしたのはなぜか。「従属」「独立」という言葉を用いて説明しなさい。

□